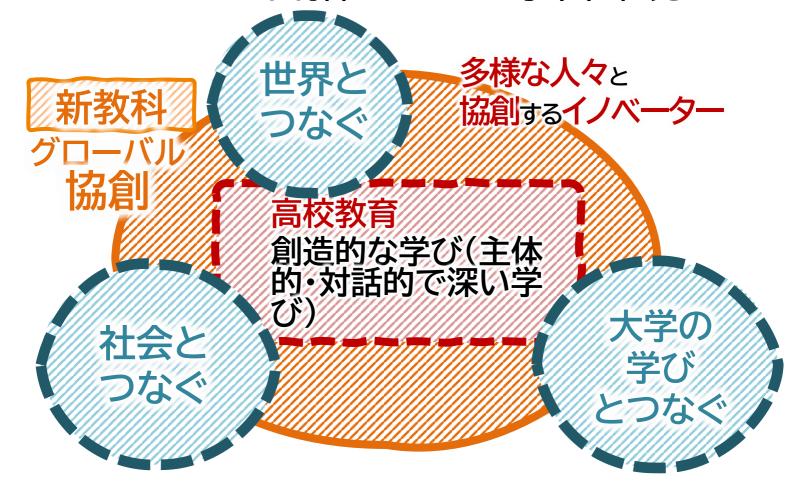




MIYAZAKI OMIYA GLOBAL PROGRAM REPORT 2023 宮崎大宮高等学校グローバル・プログラム(国際協働プログラム)



WWLで目指してきた学習環境



新教科「グローバル協創」の目標



グローバル協創 I

希望制のプログラム

1年次

プロジェクト/イノベーション

協創基礎×協創情報-プロジェクト学習でマインド・スキルを学ぶ

1年次:4月 未来図書館プロジェクト



チームでプロジェクトに取り組み、 プロセスとマインドを学ぶ。

1年次:5~6月 SDGs×食プロジェクト



協創に必要な拡散と収束のスキル を、フレームワークを使って学ぶ。

1年次:7月 キャリア探究プロジェクト



協創の方法を活用して、自 将来と、学びについて考え

1年次:12月

Global Camp

創造的な学びの復活

2年次

グローバルプロジェクト

グローバル・コミュニケーション

1年次:9月 SDGsフィールドワーク



新しいチームで、現地を訪 人々の理解・共感・洞察を

1年次:12月 Global Camp



、Tとのチームで寝食を共にし,英語漬けの2日間。で会話する。英語ス チコンテスト、英語ディベート、プロジェクトを共に創る。

1年次:1~2月 プロジェクトを始動



F次:2月 内外の人々と対話



1年次:3月 プロジェクトから研究へ



国内のフィールドワークでの地域の人々や、グローバルキャンプでの外国人ALTとの対話をもとに、国内外で協働し て取り組むプロジェクトを立ち上げる。この実現に向けて、課題研究を始める。

1年次:8月(希望者)

TISP(イノベーション・サマープログラ 山(本校×JSIC主催)



プロジェクト学習で学んだスキルを活かし て、国内外のイノベーティブな学生達と、 アイディアを共に創る。(日・英)

グローバル協創Ⅱ

2年次:4~7月 課題設定,研究計画立案 2年次:8~10月 調査・実験と結果・考察

2年次:11~3月 研究成果を社会に共有



宮崎大学・宮崎産業経営大学との高大連携のもと、課題研究に取り組む。一部のチームは、国内外連携校と連携した 課題研究を取り組むことも可能。

国際協働プログラム

台湾・ベトナム・シンガポール研修



世界とつなぐ

2年次

海堆校の京林・大学セレフィールド

連携校の高校・大学生とフィールド ワーク・ディスカッション,プレゼン テーション

グローバル協創Ⅲ

3年次:4~7月 グローバル高校生フォーラム に向けて 3年次:4·7月 研究論文の作成

3年次:9~12月 グローバル・キャリアパス

世界と 大学の 学び とつなぐ

課題研究の成果を,国内外連携校が参加する国際会議を発表・議論。

研究成果を研究論文(日本語)にま とめ、社会に貢献する。 これまでの学びを振り返り,これからの学びを設計する。

3年次

海外連携校 も参加



国内研修



連携校の高校生が来日。実験教室、 フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを共に行う。

宮崎大宮高校の

グローバル・プログラムのポイント

本校は、2015年から文部科学省のSGH指定・2020年には ,文部科学省のWWLコンソーシアム構築支援事業・カリ キュラム開発拠点校の指定を受けました。 この期間に,本校では台湾・ベトナム・シンガポール・米 国の海外研修やイノベーションプログラムを連携機関と連 携し,本校独自で教育プログラムを研究開発しました。



POINT 3

少人数グループで、 現地の高校生・大学生と 深く関わることができる

POINT 4

POINT 2 探究テーマにもとづき 英語によるプレゼンテーション・ディ 自ら計画・実行し主体性を鍛える -学校が用意するのは宿泊先と航空券のみ-スカッション能力を身につける **POINT 5 POINT 1** 高校時代の経験によって形成 海外の姉妹校・連携校との信頼 されるマインドは自分自身の将 関係による協働・双方向の交流 来を変える可能性がある (特に台湾・ベトナム)

宮崎大宮高校の グローバル・プログラムの概要



海外でグローバル体験(アウトバウンド)

プログ ラム	台湾研修	ベトナム研修	シンガポール	米国研修 (米国短期留学)
目的	(文部科学省 スーパーク	グローバル・リーダーを育成 ブローバルハイスクール(SGH)指定に	て開発開始(2016年~)	グローバル・ イノベーター育成 文科省WWL指定にて開発開始(2020年~)
コンセプト	台湾・ベトナムのトップレベルの好 ラムを作成。授業体験・ホームステ 庭に没入する。		探究テーマを切り口に,自分で社会調査を計画して実行する 武者修 行。	進路探究テーマを切り口に、自分の将来に 関連性のある研究者を調べ訪問地を 自ら計 画して実行し、志を高める 武者修行 。
主な連携 先	姉妹校 高雄高級中學	姉妹校 グエン・タット・タイン 中学高校	シンガポール国立大学日本語 研究会の大学生/シンガポール 国立大学附属数理高校	コロンビア大学・ハーバード大学・マサチューセッツ工科大学の大学生
主な活動 内容	本校の姉妹校との国際交流体験, 学校生活体験, 姉妹校の生徒と探究活動の社会調査 ファイナル・プレゼンテーション		現地理解,大学生の支援をもらい, 探究活動の社会調査 ファイナル・プレゼンテーション	進路志望分野の教授・学生等との対談, 関連施設の訪問 (自ら計画しアポイントをとる) ファイナル・プレゼンテーション
宿泊	ホテル&ホームステイ	ホテル&ホームステイ	ホテル	ホテル

国内でグローバル体験(インバウンド)

プログ ラム	イノベーション・プログラム				
パート	交流パート	ホームステイ	イノベーションパート(TISP)		



探究テーマにもとづいて

フィールド調査(インタビュー・アンケート)





DAY1 (2/27) 人生初NY 遂に始まった海外研修!

成田空港を出発し、太平洋を横断。13時間かけ、北アメリカ大陸の東海岸、

ニューヨークに到着した。

入国審査を無事済ませ、タクシーで街の中心部にあるホテルに移動。その後 タイムズスクエアに行き、その後は自由行動、昼食を取り、国際連合で再集

国際連合ではツアーに参加。ガイドさんはもちろん英語。初めて本格的に英 語を聞き取る必要があった。その後はブリーフィングに参加。本部で働く澤西 さんにお話を伺い、質疑応答で考えを深める有意義な時間となった。

終了後、雪隆るニューヨークの街なかで各自夕食を取り、一日目が無事終了

学んだこと・感じたこと・考えたこと

人生初のニューヨーク上陸に興奮を抑えられなかった。終始心を躍らせなが ら街中を歩いていた。建物から道の広さまですべての規模が日本と異なる。テ レビでしか見たことがなかったタイムズスクエアが目の前に現れたときの興奮 は忘れることがないだろう。言われていたとおり、お金目的に近づいてくる人 もいたが、これも今となっては良い経験、学びである。ニューヨークの社会を 感じることができたと思える体験となった。

その後、この異国の地で、大人の手を借りず、子供だけで行動し、昼食を取 ったり、街なかを歩いたりすることができた。初めは、言葉が通じるか、迷子 にならないか、変な人に捕まらないかと、様々な心配があったが、いざ来てみ るとそのような不安は一切なくなり、街の風景に釘付けになりながら、楽しい 時間を過ごすことができた。入国して初めて店で注文をしたのがこの時である 注文の仕方やチップのことなど、先生方に教えていただくことなく、自分たち で学ぶことができたことが大きな経験になった。

教科書の中の存在であった国際連合を実際に見ることができたことにとても 感動した。普段およそ190カ国で会議を行っている現場や、安全保障理事会が 実際行われている場所を知ることができ、世界の中心がここにあるのだという ことを実感した。国連に入るために荷物検査がある事に驚いた。門もすべて閉 じられ、それぞれ警備員が二人ずつ立っていたので、やはり厳重な警戒態勢が 取られているのだなと思った。

国連ツアーに参加して、初めて知ったことがたくさんあった。国連は会議を する場所とオフィスなどがあるだけだと思っていたが、実際はそうではなく、 私達が今回参加したツアーのように、一般の人に向けての展示が行われていた 展示には、各国からの寄贈品や、戦争に関するもの、奴隷制度についてなどが あった。その中でも最も印象に残っているものは、子どもたちが書いたとされ る数々の文章である。どれも、人間の権利について書かれていた。子どもの貧 困は、絶えない社会問題である。そのことを象徴するように展示がされており、 国連を訪れた人々に伝える良い手段だと思った。日本に落とされた原爆につい

DAY2 (2/28) コロンビア大学ツアーと google訪問

起床後、ホテルー階レストランにて朝食としてサンドウィッチを食べたあと、 全員でLisaさんに案内していただきながらニューヨークを散策した。9/11の跡 地であるグラウンド・ゼロや、世界恐慌の発端となったウォール街、自由の女 神のある島へのフェリー乗り場があり、かつて移民が初めて上陸していたバッ テリーパークなどを訪れた

そして、全員で地下鉄に乗ってコロンビア大学に行った。ニューヨークの地 下鉄は治安が悪いと聞いていたが、特に大きなトラブルは起こらなかった。し かし、途中酔っ払った方が乗ってきで何かしらをずっと叫んでいたため、目を 合わせないようにした。コロンビア大学に到着したら、12時からツアーが始ま る人はツアーの集合場所に行き、一時からである私達は昼ごはんを食べに行っ た。Manhattan's largest board game cafe でパニラアイスとアップルパイを食

コロンビア大学のengineering tourに参加したあと、地下鉄に乗ってcornell techにいった。しかし、次の待ち合わせの時間が迫っていたため急いでいると、 何かしらの撮影がおこなわれておりエキストラと間違えられそうになったため

その後、4時からgoogleを案内していただく約束があったため地下鉄で向かお うとしたが、降りる駅をまちがえて遅れてしまったため、急遽タクシーを使っ て移動した。そして、グーグルのオフィスを案内していただいたあと一階にあ る売店で買い物をした。その後、チェルシーマーケットに向かってウィンドウ ショッピングをした。そして、タクシーを自分で捕まえて行き先を伝え、5時す ぎにホテルに帰った。

学んだこと・感じたこと・考えたこと

ニューヨークの散策において、グラウンド・ゼロのサウスタワー・ブールと ノウスタワー・ブールには9・11の犠牲者の方々の名前が刻まれており、どれ ほど悲惨なものだったのかを少し感じ取れた。また、ウォール街やバッテリー パークにおいても、Lisaさんや木場先生の解説を聞いて、それぞれにどのよう な歴史や謂れなどがあるのかを知り、更に深い体験ができたと思う。

コロンビア大学では、広い敷地にアメリカ独立以前からのヨーロッパ風の建 物があり、それらの場所で様々な人が学んでいるのだということを実感し、日 本とのスケールの違いも含めて驚いた。

googleにおいては、日本でよく見る普通のオフィスではなくビリヤードや卓 球台、無料のスナックやカフェ、更にはマッサージコーナーまでありやはり日 本との違いに驚くと同時に、働き方の変化も感じてこれからどうなるのかが非 常に興味深くなった。また、googleを案内してくださった方によると、google はこれからAIやVRを最も重視する分野の一つとするだろうとのことだったので、 非常に楽しみだった。また、チェルシーマーケットには以前の市場だった頃の

活動そして学び・思いを記録する

DAY5 (3/3) MIT訪問& ボストン科学博物館

文: 担当者の氏名 (14pt) (宮崎大宮高等学校 文科情報科2年 氏名)

さまな展示があり、とても興味深かった。なかには日本の折り鶴がたくさん吊 り下げられた美しいオブジェクトもあり、思わぬところで日本を感じられた。 さらに、移動するのに徒歩で20分ほどかかったり、大学内もたくさんのバスが 通っていたり、10階ほどはあると思われる建物があったりと、とやはり日本と 比べてとても広い敷地や高い建物を持ち、規模の違いを感じた。また、ニュー カークさんはMITの普通の人が入れないような部分まで紹介してくださり、研 究所や実際に実験等を行っている場所まで見ることができた。その後また別の キャンパスツアーに参加し、MITの建物について、どのように使われているの かや由来、建てられるまでのお話などを教えてくださった。他の2つの大学も そうだが、たくさんのカフェや公園、図書館など、勉強やリフレッシュができ る場所が多くあることがわかった。さらに歩きながらMITの制度についても聞 き、より自分の興味のある分野を学べることがわかった。キャンパスツアーが 終わった後は各自別行動で、本日は私はアポイントメントをとっていなかった ので、近くにあるボストン科学博物館に向かった。この博物館はチャールズ川 の上にあり、そこに行くまでに川沿いを歩いたのだがとても景色が美しかった。 博物館に到着し、チケットを購入して入場した。チケット代が29ドルと日本の 科学博物館に比べるとかなり高い入場料だった。また追加でプラネタリウムの チケットも9ドルで購入した。プラネタリウムは星座についてや神と科学につい てなど、様々なプログラムがあった。私は火星探査のプログラムを観たがとて も面白かった。ただ、展示の方は参加型で実際に触れたり動かしたりできるも のだったが、日本にあるものとあまり変わらず、見たことのあるものばかりだ ったので少し残念だった。より安い入場料でたくさんの展示を見ることのでき る日本の科学博物館はすごいと思った。日本もブラネタリウムのプログラムの 豊富なところが増えたらいいなと思った。 学んだこと・感じたこと・考えたこと

MITだけでなく、3つの大学を全て訪問して1番印象的だったのは、どの大学 もとても雰囲気が良いことだった。案内してくださった学生は私の拙い英語も 一生懸命理解してくれようとしてくださったし、説明もとても丁寧でわかりや すかった。道行く人と目があったときは微笑んでもらったり、道に迷った時は 親切に説明してくださった。なかには授業を抜け出してわざわざ我々のために 来てくださった方もいた。また、上でも述べた通り、あらゆるところに勉強や リフレッシュできるスペースがあり、とても効率的に作業できそうだと感じた。 さらに、案内してくれた学生たちに大学の雰囲気を聞いてみると、やはり一生 懸命な人が多かったり、いい人がたくさんいたりするとおっしゃっていた。コ ロンビアとハーバードでお会いした教授や、国連で働く澤西さんもおっしゃっ ていたとおり、人間性や人の良さは他のところにも通ずるのだなと実感した。 私も将来、アメリカの大学に留学できるように、勉強はもちろん、人間性も磨 いていきたいと思った。

Miyazaki-Omiya Senior High School WWL 未開知期哲学2022

DAY4 (3/2) ベンチャー企業活動にふれ、 よい刺激をもらった



(宮崎大宮高等学校 文科情報科2年

取りAdmissionセンターに集合した。

STEMツアーではまず、ハーバード大学のカリキュラムやイベント、入学方 法などについて説明を受けたあと、次はSumがハーバード大学を案内してくれ た。その際、ハーバード大学に飾られているジョン・ハーバード市の銅像には3 つの嘘があることや、ハウスシステムについて詳しい説明をしてくれた。

ハーバードでの活動が終わったあとは、自分でバスに乗ってポストン科学博 物館にいった。今回科学博物館を訪れた理由としては、VRテクノロジー技術を 使った展示があるかなどを調べたかったからだ。ところが、実際はVRの展示な どはなく、また、小さい子供連れが多かったため、体験型の展示も少し対象年 齢が低いように感じられた。

科学博物館を出たあとは、CIC ビルのVenture Cafeで開かれているイベントに 参加しに行った。科学博物館の近くから出ている電車に乗ろうとしたが、運行 しておらず、バスも近くになかったため歩いて行くことを決めた。地図に従っ て進み、Venture Cafe周辺には来たものの、入り口がわからず入るために約20

CIC ビルを見つけ、会場に行くとすでに大勢の大人の方々が飲み物片手に会 話をしており、チェックインをするとビールが要るか要らないかを聞かれたこ

とで、高校生向けのイベントではないことに気がついた。

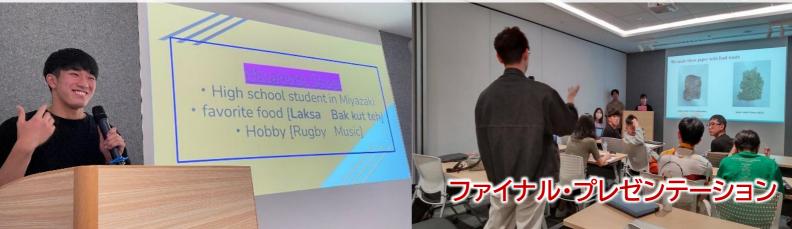
三階にむかうと、ちょうどプレゼンが終わったところで、木塲先生の紹介も あり、実際にアプリの開発に携わっているという方のプレゼンを少し聞くこと ができた。その後、五階に上がるとあらたなセッションのようなものをしてい たが、後ろで話している人たちがあまりに騒がしかったため聞き取れなかった。 それから数分立つと司会のような方が出てきて、話す人は場所を変えてくれと 言ってくれたため、セッションを聞き取ることができた。内容は、イノベーシ ョンの鍵となることなどについて話しており、普段から言われるような人との 繋がりや我慢強くすることが大切などのことを話していた。 学んだこと・感じたこと・考えたこと

ボストン科学博物館は、VRに関するものを期待していただけにあまりなくて 非常にがっかりした。また、家庭にあまり善及していないだけでなく、博物館 にすらほぼおいていないとなると、今の所斬新さという面であまり新しい研究 が進んでないのではと考えた。

CICのVenture Cafeにおいて、お話を伺ったことで、今現在のVR技術自体は アプリ化も目指せるほどだと知って、やはりVR技術そのものは進歩して手が届 きそうになろうとはしているのだと感じ、その上でさらなる発展もできるのだ ろうと考えました。また、その後に見たセッションにおいては、普段から言われているようなことがやはりイノベーションに大切だと言っていたため、今ま でのことは正しかったと確認できたため、非常に良かったと思う。



探究テーマ_{について} プレゼンテーション・ディスカッション



【米国研修】進路探究テーマについて

武者修行での学びをファイナルプレゼンテーション」

1.Research Questions

I want to study about "VR technology"

How can VR contribute to the world more efficiently? How will VR be developed in the future?

(Not only to enjoy video games)→



2.Reasons

I want to live in "a new world" what we can only imagine now.

> There, people use VR in their everyday life.

3. Significance of the study

"VR technology" is not only for entertainment but also useful for

medical treatments. Ex.it can be used for therapy of PTSD

And for shopping, studying, traveling, and so on.



4. Purpose of the study

How is VR technology developed now?
 what is the problem which must be solved?

Learn how VR will change and what role it can play! making an application which enables us

to visit and walk VR world and upload and watch our photos and movies there.

> It will be not impossible to us VR in our everyday lives

The pictures of Venture Cafe





Is it possible to make freely our own VR world?

May be still difficult,

but everyone will soon be able to do it.

Final Result.

We will be able to use VR daily

in the near future We may be able to live in VR in the future.

VR will surely be able to be used to help people in more fields which is even a fundamental of our life

such as in saving refugees, in architecture, and in basic lives.



台湾研修プログラムは、前半の**台北市内プログラム**と後半の**高雄市内プログラム**に分かれます。

前半の台北プログラムでは台湾や台湾と日本・宮崎との関係を学び、後半の高雄市内プログラムでは、姉妹校協定を2015年11月に結んだ名門校・高雄高級中學とのフィルドワーク・ディスカッション・プレゼンテーションを通して、課題研究テーマを切り口に宮崎と台湾を結びつけて深く考え、高級中學生との友情を築いていきます。

南台湾トップの 姉妹校の生徒との コラボレーション

台湾研修

姉妹校
Kaohsiung
Senior High School
高雄市立高雄高級中學(台湾)



2015年11月 姉妹校協定締結

■研修日程(2019年8月実施分)

	בוי בו כיו ו	E(2013年6万天池刀)
1	7/27(土)	移動(宮崎空港→桃園国際空港)
2	7/28(日)	台北・班別フィールドワーク,九份研修
3	7/29(月)	午前:公益財団法人 日本台湾交流協会訪問 午後:トレードメディアジャパン 訪問
4	7/30(火)	午前 :長生製茶廠有限公司 にて講話・実習 午後:移動日(台北→高雄)
5	7/31(水)	高雄高級中學訪問&ホームステイ① 午前:姉妹校・高雄高級中學との交流事業 午後:課題研究ディスカッション
6	8/1(木)	高 雄高級中學訪問&ホームステイ② 終日:高雄高級中學生徒とフィールドワーク
7	8/2(金)	高雄高級中學訪問&ホームステイ③ 午前:プレゼンテーション準備 午後:課題研究コラボブレゼンテーション
8	8/3(土)	午前:移動(高雄→桃園) 午後:移動(桃園国際空港→宮崎空港)



本校との姉妹校締結に 尽力した河野 昭氏

河野さんは台湾生まれ、台湾育ちの「湾生」。旧制高雄中学在学中に終戦を迎え、本校を卒業した。自身が学んだ本校と高雄高級中学の姉妹校締結を実現さ誉市民の表彰を授与される河野昭氏)

参加者のコメント

台湾に行くのは、この研修で2回目だったのですが、この 研修でしか体験出来ないとても貴重な経験や、かけがえの ない友達を持つことが出来ました。台北市での研修は、台 湾を肌で感じ、文化や歴史について学びました。TMJでは 、台湾の政治についても知ることが出来、台湾の若者が自 分たちの問題としてとらえ、政治に関する関心が高いこと を知り、私も自国の政治情勢について他人事だと思うので はなく、しっかりした意見を持てるようになりたいと思いま した。台北ではグローバルに働く企業を訪れ、将来グロー バルな会社で働いてみたいと思ったのとともに、将来の仕 事の選択肢が広がったと感じました。高雄高級中学との交 流が始まってからは、その英語力に圧倒され、もっと英語 を頑張らないといけないと強く思いました。また、この三 日間のオールイングリッシュ生活で、学んだ単語がたくさん あり、英単語帳を眺めるよりも実際に使う英語を学ぶこと でより忘れにくいということがわかりました。

わたしが1番心に残っているのは何と言っても高雄高級中学の生徒との交流です。彼らは本当に親切で、とてもよい時間を過ごすことが出来ました。二日間でいろいろな各地を回りましたが、私にも分かるような英語で説明してくれたり、質問しても笑顔で答えてくれたことがすごく嬉しかったです。今回は私の英語力が無いために向こうの生徒にたくさん迷惑をかけ、分かるまで何度も説明してくれたので、次会うときまでに英語力を向上させ、そのようなことがないように、そして宮崎の魅力をもっともっと知ってもらえるように、英語だけでなく、宮崎の文化や歴史について改めて勉強しないといけないと感じました。ここで出来た友達との交流を絶やさず、またみんなで台湾を訪ねたいと思います。

(2019年参加生徒のコメント)





















ベトナム研修プログラムは、ハノイ国家教育大学附属グエン・タット・タイン中学高校との濃い交流プログラムが中心になります。学校生活や授業体験・特別プログラムが数多く企画されています。また、ホームステイも含めて、他のプログラムではなかなかできない、ディープなベトナムの文化・風土を知り、人々と深く関わる「没入(イマージョン)体験」ができます。

ベトナム トップレベルの 姉妹校の生徒との 感動的な没入体験

ベトナム 研修

姉妹校

Nguyen Tat Thanh Lower & Upper Secondary School

ハノイ国家教育大学附属 グエン・タット・タイン中学高校



2023年3月 姉妹校協定締結

■研修日程(2023年3月実施分)

1	3/4(土)	移動日(宮崎空港→成田空港)
2	3/5(日)	移動日(成田空港→ハノイ) 旧市街見学 (ナイトマーケット)
3	3/6(月)	日越大学訪問(日本語授業参加) 旧市街見学(文廟・ホーチミン廟等)
4	3/7(火)	Nguyễn Tất Thành中学高校訪問・ホームステイ ① ・歓迎セレモニー ・国立民俗学博物館 ・授業参加(ブレゼン発表) ・授業参加(生物) ・文化交流(ベトナムの歌の練習)
5	3/8(水)	Nguyễn Tất Thành中学高校訪問・ホームステイ ② ・バチャン陶芸村 ・授業参加(プレゼン発表) ・授業参加(日本文化紹介) ・バスケ親善試合
6	3/9(木)	Nguyễn Tất Thành中学高校訪問・ホームステイ ③ ・社会福祉施設訪問 ・ベトナム民族文化観光村見学
7	3/10(金)	Nguyễn Tất Thành中学高校訪問・ホームステイ ④ ・科学部の実験教室参加 ・姉妹校締結式 ・国立科学技術アカデミー見学 ・ファイナルプレゼンテーション ・お別れセレモニー
8	3/11(土)	・ホストファミリーと過ごす ・お別れ夕食会 ・機中泊
9	3/12(日)	移動日(ハノイ→成田空港→宮崎空港)

参加者のコメント

研修メンバーの中で一番, 英語が聞き取れない, 話せなかった私でしたが, どんな些細なことでもメモ帳に書き留めたり, 一度うまく伝わった表現や話のネタがあったら, 自分でも呆れるほど色々なところで繰り返し使ってみたりと, 自分のやり方を貫いたこと, そして完璧でなくても, カタコトでも, 言葉を発することをためらわなかったことが, 私を大きく成長させてくれたと思っています。今では, 些細なことでも気になることやわからないことがあればすぐに誰かに尋ねることができるようになりました。

現在の国家主席の家の外観を見て、ホーチミンの家を訪れて、一柱寺で拝んでホーチミン博物館に行った後は、ドンスアン市場で食事をし、午後は、ベトナムで有名な古民家カフェの屋上からホアンキエム湖周辺を一望しながら、ベトナム名物のエッグコーヒーとヒマワリの種をいただきました。あいにくの雨でしたが、まったりとしながら、ホストファミリーとたくさんお話ができました。(中略)ホストファミリーとたくさんお話ができました。(中略)ホストファミリーと過ごすことのできた時間はとても幸せでした。先生が何度もおっしゃっていた"研修を全力で頑張った、楽しんだ分だけ、別れるのが辛くて涙が止まらない"という言葉に強く頷きながら私も溢れる涙を大きなタオルで拭い、ベトナムに感謝と別れを告げました。

私はこの一週間で、自分を貫く力、間違いやできないこと、わからないことがある自分を自分がしっかりと認めてあげること、そしてそのわからないことはためらわず尋ねる力を伸ばせたと感じています。今回は、自分の"一度成功したことは何度も繰り返す"という性格が功を奏したと思います。また、"迷った時はまずやってみよう"という姿勢が自分の中では大きな成長に繋がったと感じています。

英語を実際に使ってきていないこと、海外に行ったことがないことなど、自分の"ない"の部分を理由に海外研修に挑戦することをためらわなかった自分、本当にありがとう!もちろん、自分のボキャブラリーの少なさ、話す力、聞き取る力の低さを突きつけられました。それでも、突きつけられることを恐れるより、突きつけられた今の方が、私は自分の中に湧いている勉強や物事に対する熱量が比べものにならないほど大きいと実感しています。語彙を増やして、ベトナムの友達に英語の実践に付き合ってもらいながら、これまで以上に根気強く頑張って、また、海外に挑戦します!











NUSの大学生と共に 探究テーマを通した 武者修行

シンガポール 研修

連携校

National University of Singapore Math&Science High School シンガポール国立大学 附属数理高校



シンガポール研修プログラムは、シンガポール国立大学の学生とフィールドワーク、ディスカッション、プレゼンテーションで協働します。探究テーマの切り口を通して、中華系・マレー系・インド系・アラブ系など多民族・多文化が共生し、東南アジアの経済の中心シンガポールに触れることになります。現地の大学生の協力を得ながら、探究テーマの調査を自ら企画し、実際にフィールドワークを行い、ファイナルプレゼンテーションまで行う「武者修行」が大きな特色です。

■研修日程(2023年3月実施分)

1	3/4(土)	午後,移動(宮崎空港-羽田空港)
2	3/5(日)	移動日(羽田空港-チャンギ国際空港) 基本研修
3	3/6(月)	シンガポール訪問研修 - 都市構造・他民族共生・政策を学ぶー ・URAシティギャラリー ・ホーカー体験 ・クレアシンガポール事務所訪問 ・マリーナ地区グルーブ研修
4	3/7(火)	シンガポール国立大学(NUS)学生との協働研修① 一他民族・多文化共生と課題研究の調査の準備ー・NUSキャンパスツアー ・シティツアー(中華・マレー・インド文化について)
5	3/8(水)	シンガポール国立博物館グループ研修 シンガポール国立大学附属数理高校(NUSH)高校生 との研修 ・開会行事 ・授業体験 ・課題研究プレゼンテーション及びディスカッション
6	3/9(木)	シンガポール国立大学(NUS)学生との協働研修② ・課題研究のフィールドワーク
7	3/10(金)	ファイナルプレゼンテーション
8	3/11(土)	自主研修 移動日 (深夜便 チャンギ国際空港-羽田空港)
9	3/12(日)	移動(羽田空港-宮崎空港)

参加者のコメント

私はこのシンガポール研修でとてもたくさんのことを学びました。海外に行くのは今回が初めてで、最初は不安が大きかったです。シンガポールの方々はほとんどの人が英語で会話ができていました。日本でも英語の教育は行なっていますが、実際に使いこなせる人が少ないのは英語を使う機会が少ないからかなと思いました。はじめは自分の英語に自信がなく、英語での会話に苦手意識がありましたが、聞き取れない言葉があれば簡単な単語に直して説明してくるし、上手な英語でなくても言いたいことを汲み取って話してくれました。もちろんしっかりした英語で話せるのが一番いいことだと思いますが、まずは恐れずとりあえず話してみるということが大切だなと感じました。

ホーカーセンターでは日本では見られないさまざまな料理をみることができました。食べたことがないものばかりでどれもとても美味しかったです。また、席が空いていなくて何度か相席をしましたが、どの方も親切で、シンガポールのおすすめの食べ物や場所を教えてくださいました。フィールドワークでは私が調べていたフェアトレードの商品を置いているお店に行きました。主にインタビューをしたのですが、私が何度聞き返しても嫌な顔をせずに丁寧に答えてくださいました。フェアトレード商品の生産者や消費者のことを詳しく知ることができてとても勉強になりました。プレゼン発表は質問がうまく聞き取れなかったり聞き取れても答えられなかったり満足のいくものではなかったですが、海外でプレゼンをしたことはこれから大きな自信につながると思います。

今回の研修で一番印象に残っているのは、NUSHの学生たちと交流したことです。彼らは第3言語まで習得していて、日本との学力の差を実感しました。私たちが発表したプレゼンに対し、褒めてくれたり、自分に意見を言ってくれたりしました。相手のことを認めつつ、きちんと自分の考えも主張しているのを目の当たりにし、個性が大切にされている環境というのはこういうことかと感じました。夕食を一緒に食べたみんなはとても話しやすくて、お互いの国や趣味についてたくさん話をしました。

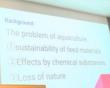
この研修を通して、よく聞く言葉ですが、本当に視野が広がりました。自分がこれまでいかに狭い視野で行動したり、物事を評価したりしていたかということを痛感しました。研修に行くことを応援してくれた両親や先生、協力してくださった現地の方々への感謝を忘れず、今回経験し、学んだことをこれからにしっかり生かしていきたいです。





















世界の政治経済 学術の中心で, 世界トップの大学の 学生達と大志を抱く

米国研修

ニューヨーク・ボストン

協力

写具石より

WWLカリキュラムアドバイザー 根本紘志様 WWLカリキュラムアドバイザー 長倉若先生 (コロンピア大学ティーチャーズカレッジ上席研究員)



米国研修プログラムは、これまで文部科学省のSGH指定以来海外との協働プログラムをつくってきた経験の上にカリキュラム・アドバイザーのご協力で企画しています。

世界の政治・経済の中心ニューヨークでは、国際政治の中心である国際連合研修、コロンビア大学での研修、学術都市ボストンでは、ハーバード大学・マサチューセッツ工科大学を訪問し、自身の「進路探究テーマ」を軸に、自らアポイントをとり世界を牽引する研究者と対談します。この「武者修行」体験を通して、世界トップレベル大学院への進学を視野に志を高めます。

■研修日程(2023年2-3月実施分)

		-(
1	2/26(日)	国内移動日 終日,プレゼンテーション作成
2	2/27(月)	米国への移動日(成田→ニューニークJFK空港) ニューヨーク・国際連合研修
3	2/28(火)	ニューヨーク共通研修 グラウンド・ゼロ,ウォール街 バッテリーパーク (自由の女神/エリス島を望む)) コロンビア大学・ニューヨーク市内自主研修 ・キャンパスツアー ・ユニセフ ・コロンビア大学(Dr.Frits, Dr. Sunil Agrawal) ・コーネルテック・グーグル社
4	3/1(水)	米国内移動日(ニューヨーク→ボストン) ボストン市内自主研修
5	3/2(木)	ハーバード大学研修①全員でキャンパスツツアー②ハーバード大学&ボストン自主研修・スミソニアン天体物理観測所・ハーバード大学メディカルスクール・Venture Café など
6	3/3(金)	マサチューセッツ工科大学研修 ①全員でキャンパスツツアー(9:00~12:00) ②MIT&ポストン自主研修 (MIT生とともに)※昼食含む 自分自身のテーマに関連した先生, 企業・研究所,施設訪問(事前に計画と予約)
7	3/4(土)	最終プレゼンテーション@MIT
8 9 10	3/6(月)	移動日(ボストン→成田) 移動日(成田→羽田) 移動日(羽田→宮崎)

参加者のコメント

今回の研修は10日間の日程だったが、どの日も様々な出来 事があり、あっという間に終わってしまったように感じる。様々 なものに驚きを持って学ぶことができ、参加できてよかったと 思っている。

そんな中で最も大きな学びになったのは、実際に教授や学生 、企業の方などが働いたり研究したりしている場所、姿を見る ことができたことだと思う。例えば、Googleのニューヨークの オフィスにはビリヤードやビデオゲーム、自由に取れるスナック やカフェだけでなく、マッサージをしてくれる場所などもあり、 とても独創的な労働環境であることに驚くと同時に、日本のオ フィスの様子だけが普通なのではないとしれたことも大きかっ た。また、venture cafeを訪れた際にも、世界中のベンチャ 一企業や大学から人が集まって、各々の研究や事業について発 表している場でお洒やポップコーンなどの食事が振る舞われ、 そこらじゅうで自由に会話したりプレゼンをしたりしていると いう空間が非常に面白かった。さらに、venture cafeに加え て、長倉教授や嘉澤さん、楠本さんのお話では、それぞれが自 分なりの理由のもと自分のテーマを研究し、同時に、一見関わ らなさそうな分野から協力したりもしているということも知る ことで、自分も将来このような場所で働きたいという具体的な 目標が持てたことが非常によかったと思う。また、研修全体を 通して日本との価値観の大きな違いに何度も触れ、視野を広 げられたのと同時に、日本でもアメリカでも同じことも見つけ ることができて、今までの考え方を補強することにもつながっ たと思う。例えば、小さなことかもしれないが、ニューヨークで はほとんどの人は歩行者信号なんて気にせず、車が来ている か来ていないかを基準にしていたり、マスクをつけている人は ほとんどいなかったりと、形式などを大事にする日本と違って 実質をより大事にしているという違いを感じて考え方の違い を実際に目にしたのに対し、venture cafeのセッションでイ ノベーションの鍵だと言われていることは日本で普段言われて いることとほとんど同じで驚きもした。また、公衆衛生などの 面においては、日本がどれほど優れているのかなどを感じ、改 めて自国の良さも感じた。

そしてさらに、今回の研修で私は少し自分に自信が持てたと思う。今までは失敗を恐れて行動しなかったことも多かったが、アメリカでの自主研修などでは、自分で行動しなければどうしようもないような場面に何度も遭遇し、その度に失敗したりも成功したりもしていたが、どちらにせよ意外となんとかなるということを身をもって感じられたことが大きく、自信に繋がったと思う。

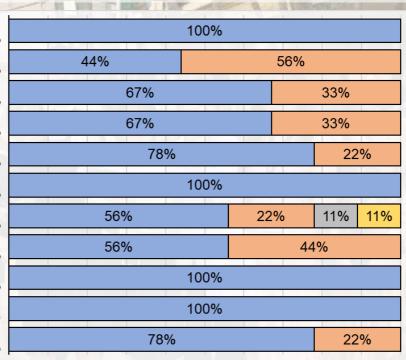


生徒の変容① グローバル・イノベーティブ・リーダーの資質

「それぞれの資質等は研修前と比べて高まったと思うか?」

-ベトナム研修調査より-

地域・国における多様性(価値観・文化)を理解できる 物事を論理的に考えたり、説明することができる 複数の観点から考えることができる 複数の物事から一番大事なことを見抜くことができる 状況に応じた斬新なアイディアを考えることができる コミュニケーションカ(自己表現と他者受容の両方)が身についている ICT機器の活用能力が身についている 自分の長所や特技を述べることができ、それを生かした行動がとれる 考えや価値観の異なる人と協力して物事を進めることができる 自国やふるさとについての理解を通じて、他国のことを知りたいと思う 将来海外の大学で学んだり、仕事をしてみたい

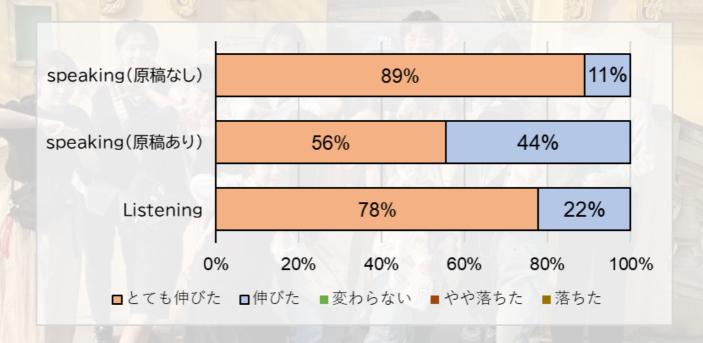


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■とてもそう思う ■そう思う ■変わらない ■あまり思わない ■思わない

生徒の変容② 英語4技能

「それぞれの技能は研修前と比べてどうなったと思うか?」 ーベトナム研修調査よりー



生徒の変容③ GTECで見る英語4技能の変容

◆同程度のスコア域での海外研修経験者と非経験者の GTEC(英語4技能最大1280)のスコアの伸びの比較

学科	月	R	L	W	S	Total
₩ ₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩	2年 12月	271	266	269	278	1084
経験者	3年 6月	278	289	261	285	1113
Ⅎ Ͱ ℯℴℶ℄	2年 12月	270	268	260	273	1071
非経験者	3年 6月	273	286	255	273	1087

イノベーション プログラム①

交流パート& ホームステイ

姉妹校 Kaohsiung
Senior High School
高雄市立高雄高級中學(台湾)

Nguyen Tat Thanh Lower & Upper Secondary School ハノイ国家教育大学附属

グエン・タット・タイン 中学高校 姉妹校の高雄高級中學(台湾)の生徒9名・先生1名とグエン・タット・タイン中学・高校の生徒17名・先生2名が本校に訪問しました。

◆交流パート

8/3の交流では、2年生の生徒を中心に、自分達で企画・運営を行いました。本校箏曲部の演奏に始まり、両校のスピーチ・プレゼンテーション・パフォーマンス、歓迎昼食会、生徒企画の縁日、ディスカッション、交流バスケットボールマッチが行われました。

8/10の交流では、海外生徒と本校生徒で宮崎市街地を舞台に班別研修を行い、宮崎最後の日の素晴らしい思い出を作ることができました。

◆ホームステイ

26名の生徒分の7泊のホームステイを受け入れた。体験談にもある通り,海外の生徒は各ご家庭で素晴らしい体験をし,忘れられない思い出になったようです。

1	8/2(水)	移動日(ハノイ・高雄→東京→宮崎)	
2		<mark>交流パート</mark> ① 歓迎行事,交流ランチ,プレゼンテーション ,交流バスケットマッチ	
3	8/4(金)	イノベーションパート①(TISP) チームビルディング,フィールドワーク	ホーム ステイ
4	8/5(土)	イノベーションパート②(TISP) 未来シナリオ分析,フィールドワーク分析	
5	8/6(日)	ホストファミリーとの時間	
6	8/7(月)	イノベーションパート③(TISP) アイディア発想,精緻化	農業大学校
7	8/8(火)	イノベーションパート④(TISP) アイディア評価,プロトタイプ,準備	宿泊
8	8/9(z k)	イノベーションパート⑤(TISP) 発表会	ホーム
9		<mark>交流パート②</mark> 班別自主研修(宮崎市街地を共にプランを立て て訪問)	ステイ
10	8/11(金)	 移動日 (宮崎→東京→ハノイ・高雄)	

ホームステイ体験談

- ◆海外留学生を受け入れて様々なことを学ぶことが出来ました。 今回は留学生と私どちらとも第一言語ではない英語を使って会話 をしていたのでお互いの言いたいことを理解するのが難しかった りして大変でした。しかしお互いのことを分かり合えたりできた時 はとても嬉しくとても楽しかったです。改めて英語を学ぶための 目的を明らかにすることが出来ました。短い間だったけれど家族 の一員として受け入れることができて良かったなと思いました。 貴重な経験ができたのでまた来年もホームステイを受け入れたい です。(ホスト1年生生徒)
- ◆コロナ禍もあり海外の人々と長らく接する機会がなかったですがこのような貴重な機会をいただいて大変感謝しております。実態したことは異文化、異言語圏の人々と接する時の私たちの英語力の未熟さです。しかし恐れていてはコミュニケーションが成立しません。間違いだらけの英語文法やジェスチャー、表情、時には簡単なイラストなどを用いてコミュニケーションの本質を家族一同、学んだ次第であります。そしてこのような海外プログラムが一朝一夕で行われるはずがありません。国や学校などの選定、予算の問題そして受け入れる側の環境整備の問題などこの素晴らしいプログラムの裏にはこれまでの先生方の御尽力、御労力あってこそと実感しております。この貴重な経験が子どもたちの視野を広げてくれるものと確信しております。本当にありがとうございました。(ホスト1年生保護者)
- ◆I felt warm as soon as I arrived the airport. They tried their best to chat with me. When I had some questions, they always answered me enthusiastically. They take care of all of my necessities of life. They brought me to school & picked up me every day. They washed clothes for me, making delicious meals every day. Sometimes they even brought me to expensive restaurants. They cared if I'm hungry. They cared if the temperature was too hot for me. They cared if I'm thirsty. They cared if I sleep well. They cared if I like the meals. They cared what I want to eat. They cared what I want to do. They cared where I want to go. They cared when I want to take a rest. They cared everything about me. I felt as if they are just my family. In the ten days program, sometimes I even thought that I want to stay there forever. I had a really unforgettable experience in the Homestay program. I would like to play Shoqi & wii & switch with them again. Because of them, I like Japan much more than before. If they choose to go to Taiwan in the next year, I would also try my best to take care of them. I miss them so much...(高雄高級中學参加生徒)



イノベーション プログラム② イノベーション パート

連携
i.SChool school
Japan Social Innovation Center
日本社会イノベーションセンター

姉妹校

Kaohsiung Senior High School 高雄市立高雄高級中學(台湾)

Nguyen Tat Thanh Lower & Upper Secondary School ハノイ国家教育大学附属 グエン・タット・タイン 中学高校 本校は、2016年から東京大学名誉教授の堀井秀之先生が設立した東京大学発のイノベーションスクールi.schoolと連携してサマープログラムを実施してきました。2016年から19年は対面、2020年から22年はオンラインでの開催を続けてきました。

今年度は、新たに姉妹校の生徒・先生を加えての対面による英語でのサマープログラムとなりました。加藤えのき様、大山食品様、九州パンケーキ様にフィールドワークのご協力をいただき、企業の強みを分析しました。その一方で、未来シナリオにもとづいて未来ニーズを分析し、これらを組合せてアイディア発想を行いました。初の試みでしたが、参加した生徒の皆さんにとっても刺激的な時間になったようです。

1	8/2(水)	移動日(ハノイ・高雄→東京→宮崎)	
2	8/3(木)	交流パート ① 歓迎行事,交流ランチ,プレゼンテーション ,交流バスケットマッチ	
3	8/4(金)	イノベーションパート①(TISP) チームビルディング,フィールドワーク	ホーム ステイ
4	8/5(土)	イノベーションパート②(TISP) 未来シナリオ分析,フィールドワーク分析	
5	8/6(日)	ホストファミリーとの時間	
6	8/7(月)	イノベーションパート③(TISP) アイディア発想,精緻化	農業大 学校
7	8/8(火)	イノベーションパート④(TISP) アイディア評価,プロトタイプ,準備	宿泊
8	8/9(水)	イノベーションパート⑤(TISP) 発表会	ホーム
9	8/10(木)	交流パート ② 班別自主研修(宮崎市街地を共にプランを立て て訪問)	ステイ
10	8/11(金)	移動日(宮崎→東京→ハノイ・高雄)	

参加者のコメント

海外の方々と一緒に活動をすることで、日本にいたら考え付かなかったようなアイディアや考え方に触れることができ、とても貴重な機会になりました。考え方の違いや英語力の差からコミュニケーションが円滑に進まないこともありましたが、それを乗り越えることで国を超えた絆が生まれたように感じます。ここまで人との出会いに感謝し、人との別れを惜しんだことはないと思うほどの最高の5日間でした。(本校参加生徒・2年生)

I learned how to cooperate as a team. Before I joined the program, I thought "cooperation" is finishing each other's parts peacefully. But during the program, I found that communication & listening are also important. In the beginning, I always only focus on my part, forgetting to pay attention to other members. A few moments later, I found that I should also help other people. In the process, surprisingly, I got a better understanding of every member, which gave me some accomplishment. Sometimes when I communicate or listen to members, some amazing ideas came to my mind. If I have the chance to join the program again, I would definitely attend in a more initiative way. Also, help each other more!

(高雄高級中學参加生徒)

The first thing that I have learnt through the innovation program is that I know the element to be a leader of a group or team. The second thing I have learnt is I know my hidden strength through teamwork, and I know I have room for improvement. About the experience, I had plenty of fun while doing the workshop. Although sometimes it was very stressful and tough, me and my team still get through and had a wonderful presentation together. The innovation program is a wonderful experience and I hope I will have another chance to do it in the future.

(グエン・タット・タイン中学高校参加生徒)















ご清聴ありがとうございました。